

株式会社さくら都市総合研究所

清水 秀幸
席員
主研究員



17 都市の景観を
考える

これまで、筆者は長野市の中心市街地、それもまちづくりの軸線（都市軸）である表参道の到達点、善光寺周辺から徐々に南下し、長野駅善光寺口まで考察を進めてきた。

そして、本来であれば、そのまま長野駅の東西通路を渡って、区画整理事業の終盤を迎える駅東口に、その章を進めるべきところであるが、ここらでふつと立ち止まり、「都市の景観」ということについて考えてみたい。

筆者の考えるまちづくりの根幹は、人口減少、高齢化、そして地方財政の縮小という三つの要素を前提とした、これからの都市の

あるべき姿にある。

つまり、従来の急激な人口増加を基調とした高度成長期の拡大成長型の都市構造から脱却し、「ポスト成長型」の都市構造への転換、言うならば、どんな手法をもって都市を賢く縮小していくか、ということにある。

そして、そのキーワードとなるのが、「心の豊かさ」を前提とするまちづくりなのである。

筆者の思う心の豊かさとは、取りも直さず「幸福論」に通じるものでなくてはならない。

戦後の復興、そして高度経済成長は、日本

を世界の冠たる先進国に押し上げ、その地位を不動のものにした。そして、日本国民はその恩賞として物質的に豊かな暮らしを享受され、今日に至っている。

（続く）

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか3委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長



市街地を流れるせせらぎ（長野市西長野）